

【リレー橋友録：私の橋歴書（1189）「知覚動考」】

株式会社オリエンタルコンサルタンツ 構造部・高度化推進部部長 増田貴充氏】



リレー  
橋友録  
私の橋歴書

<1139>

平成5年、大きな橋の設計を希望し、オリエンタルコンサルタンツに入社しました。入社して30年、あらためて振り返ると、非常に恵まれた橋歴であったと思います。

入社後、中部支社（名古屋）に配属され、最初に從事した橋梁設計が名古屋ガイドウェイバスの下部工の設計でした。Y字形の特殊な形状を有する橋脚であったため、FEM解析を用いて橋脚梁

その後、P.C.エクストラドード橋の設計、災害復旧に関連した架け替え設計、新東名高速道路の設計等、様々な経験がありました。現在は、就業環境改善のため、他のコンサルタントの設計技術者と連携して、新たな橋ができたような気持ちになりました。しかし、自分がこれまで積み重ねた経験がない中、自らの好奇心もあり、自分が納得いくまで計算をさせたときの経験が現在でも活かされていると思いま

す。また、平成7年には兵庫県南部地震が発生し、島子にも、「父さん、耐震設計が大きくなりすぎた」と言いました。数年前に、「知覚動考」を始めたばかりの増田が、島子と一緒に「(ともかくうごこう)」と名づけた新しい耐震設計について道筋橋不力書が手元で真っ黒になるまで読み込まれました。先輩や同僚と議論する中でも、父親としての自分が守りたい感覚を保つことができました。

私は、この経験が、仕事で動いて、動いて、考える成長プロセスを現した言葉です。今まで、仲間と共に活動してみたが、知つて覚えたことをすぐに行動に移す、「やつてみた方がよそつぱいです。」実現することができたと感じました。数年前に、「知覚動考」が設計した橋が、実際に建設されました。島子の「(ともかくうごこう)」という言葉を知りまし

た。西日本に住んでいた頃、日本語になつてから、大日本ダイヤコンサルタンツの話になつてから、西本相處様にパトンタツとさせていただきます。

知覚動考

(ともかくうごこう)

株式会社オリエンタルコンサルタンツ

関西支社副支社長  
(兼)構造部部長 増田 貴充

その後、P.C.エクストラドード橋の設計、災害復旧に関連した架け替え設計、新東名高速道路の設計等、様々な経験がありました。現在は組織をマネジメントする主な職務となっていますが、若手技術者に対する指導も重要な役割です。現在は組織をマネジメントする主な職務となっていますが、若手技術者には夢のある仕事を得ることを伝えるとともに、多少不安があったとしても、やってみたいことや勇気を出して動き出すことがあります。

これは、知つて、覚えて、動いて、考える成長プロセスを現した言葉です。今まで、仲間と共に活動してみたが、知つて覚えたことをすぐに行動に移す、「やつてみた方がよそつぱいです。」実現することができたと感じました。次回は、関西支社に異動になりますから、大日本ダイヤコンサルタンツの話になつてから、西本相處様にパトンタツとさせていただきます。

した。

ます。今は、多くの業界で、時代の流れは速く、変化が激しく、現代の仕事の